

令和4年度 厚生労働省科学研究費補助金

治療と仕事を両立する患者に対する継続的な支援の実態と方策の検討
(22JA1002)

分担研究報告書

治療と仕事の両立支援を必要とする復職後の患者
に対する離職要因を検討するための調査

研究分担者

江口 尚

(産業医科大学産業生態科学研究所 産業精神保健学研究室 教授)

令和4年度 厚生労働省科学研究費補助金
治療と仕事を両立する患者に対する継続的な支援の実態と方策の検討
治療と仕事の両立支援を必要とする復職後の患者に対する
離職要因を検討するための調査

研究分担者 江口 尚（産業医科大学 産業生態科学研究所 産業精神保健学研究室 教授）

研究要旨：

治療と仕事の両立支援（以下、両立支援）への関心の高まりとともに、患者が職場復帰時に事業場から両立支援を受ける機会は増えている。これまでの両立支援は診断時の不必要な退職や離職の予防に関心が向けられていた。復職時に適切な両立支援を受けることにより、就労継続し、職場復帰する事例が増えている。一方で、両立支援の次の段階として、職場復帰後に両立支援を受けていたにも関わらず、一定期間就労を継続したのちに、離職や退職をする患者が一定数いることが認識されている。しかし、その実態についての調査はされていなかった。そこで、本研究では、職場復帰後に離職する労働者の実態を把握することを目的とした。

調査は2022年12月16日から19日にベースライン調査として実施した。本調査は、楽天インサイト株式会社に委託して実施される。対象者は、楽天インサイト株式会社が保有するパネル参加者220万人に対してメールやホームページの広告等を通じて参加の呼びかけを行い、研究参加に同意した参加者が任意に回答した。選択基準を満たすがん罹患者500名、指定難病罹患者500名から回答を得た。

年齢は、がん罹患者が54.1歳±8.7歳、指定難病患者が48.6歳±9.4歳であった($p=0.084$)。性別は、男性は、がん罹患者が310名(62%)、指定難病罹患者が312名(62%)、女性は、がん罹患者が190名(38%)、指定難病患者が188名(38%)であった。性別、年齢以外のベースライン時の属性や社会生活への支障、体調の変調、主治医への仕事の相談、主治医からの仕事の制限、フルタイム就労の可否、可能な仕事の内容、相談先、10の質問、仕事の内容、支援の内容について表1から表17に示した。調査項目については、職場復帰後の離職に影響する要因を網羅的に収集した。

がん罹患者と指定難病罹患者では、いくつかの項目について有意な差を認めた。診断から1年以上経過したがん罹患者と指定難病罹患者を対象に、就労継続に影響する要因を網羅的に収集した。フォローアップの年となる次年度は、同じ対象者に対してアウトプットに関する情報を収集し、就労継続に与える要因を検討し、治療と仕事を両立する患者に対する継続的な支援の実態と方策に資する結果を提供する準備が整った。

A. 目的

2016年に「事業場における治療と仕事の両立支援のためのガイドライン」(以下、ガイドライン)の公表、2020年には診療報酬が改訂され、療養・就労両立支援指導料が加算できるようになり、わが国における治療と仕事の両立支援の取り組みへの関心が高まった。しかし、まだ、十分普及しているとはいえない。ガイドラインにフォローアップの必要性が言及されているものの、継続的な支援の実態や支援再開の具体的な契機については明らかではない。がん患者は、治療を受けながら就労を継続するなかで、治療に伴う倦怠感や疲弊、痛みなどの身体的問題、集中力や記憶力の低下などの認知的問題を抱えることがあると報告されている。それらの変化に応じ業務を遂行する能力の変化があった場合は、職場での配慮の変更など継続な支援が必須である。また、労働意欲も変化し転職や退職を検討する患者もいる。支援は患者が自身の状態を説明し再開されるが、支援を申し出やすい環境が整っていない可能性がある。また、患者からの支援の申し出がなくても、最初の支援で関わった支援者が患者の状態に関する情報を入手し、支援が必要な状態を把握し、支援を申し出るよう患者に促すこともできるが、そのような働きかけが出来る条件が揃っていない可能性がある。また、様々な環境、条件が患者と支援者の相互作用により継続的な支援が促進、もしくは阻害され

る要因となると考えられるが、それらの環境、条件等についての実態の把握が進んでいないため、継続的な支援を行う具体的な方策についての知見が蓄積していない。

治療と仕事の両立支援(以下、両立支援)への関心の高まりとともに、患者が職場復帰時に事業場から両立支援を受ける機会は増えている。これまでの両立支援は診断時の不必要な退職や離職の予防に関心が向けられていた。復職時に適切な両立支援を受けることにより、就労継続し、職場復帰する事例が増えている。一方で、両立支援の次の段階として、職場復帰後に両立支援を受けていたにも関わらず、一定期間就労を継続したのちに、離職や退職をする患者が一定数いることが認識されている。しかし、その実態についての調査はされていなかった。そこで、本研究では、職場復帰後に離職する労働者の実態を把握することを目的とした。

B. 方法

調査は2022年12月16日から19日にベースライン調査として実施した。

本調査は、楽天インサイト株式会社に委託して実施される。対象者は、楽天インサイト株式会社が保有するパネル参加者220万人に対してメールやホームページの広告等を通じて参加の呼びかけを行い、研究参加に同意した参加者が任意に回答した。

具体的には、パネル参加者に対して、一

定数のスクリーニング調査【SC1 から SC4 に全て「はい」と回答した者が対象者】を行い、それに合致したモニターに対して、Q1 以降の回答を依頼した。回答を完了した者にポイントが付与される。なお、スクリーニング調査に回答して、本調査の対象外となった者に対してもポイントが付与される。目標数に達した時点で調査を終了することとした。

選択基準

以下の項目をすべて満たす者を本調査の対象者とした。

- SC1 調査実施時点で、がん又は指定難病の診断を受けて 1 年以上経過している。
- SC2 調査実施時点で、何か収入になる仕事をしている。
- SC3 調査実施時点で、現在の健康状態で仕事を継続するにあたって、会社から配慮や支援が必要である。
- SC4 調査実施時点の年齢が 20 歳から 65 歳である。

統計解析方法は、ベースライン時のがん罹患者と指定難病罹患者の属性を比較するために χ^2 検定や t 検定を用いた。

(倫理面への配慮)

本研究は、産業医科大学倫理審査委員会の承認(承認番号:R4-043)を得て実施した。

C. 結果

選択基準を満たすがん罹患患者 500 名、指定難病罹患患者 500 名から回答を得た。年齢は、がん罹患患者が 54.1 歳 \pm 8.7 歳、指定難病患者が 48.6 歳 \pm 9.4 歳であった

($p=0.084$)。性別は、男性は、がん罹患患者が 310 名(62%)、指定難病罹患患者が 312 名(62%)、女性は、がん罹患患者が 190 名(38%)、指定難病患者が 188 名(38%)であった。

性別、年齢以外のベースライン時の属性や社会生活への支障、体調の変調、主治医への仕事の相談、主治医からの仕事の制限、フルタイム就労の可否、可能な仕事の内容、相談先、10 の質問、仕事の内容、支援の内容について表 1 から表 17 に示した。調査項目については、職場復帰後の離職に影響する要因を網羅的に収集した。がん罹患者と指定難病罹患患者では、いくつかの項目について有意な差を認めた。

D. 考察

本研究の目的は、職場復帰後に離職する労働者の実態を把握することために、ベースライン時に罹患後 1 年以上経過しているがん罹患者と指定難病罹患者を対象に 1 年間のコホートをインターネット調査により構築する。1 年目である本年はベースライン調査を実施した。

がん罹患者と指定難病患者で、一部の要因について、有意差を認めた。単に症状だけではなく、疾患名も継続支援を行っていく上で必要な情報となる可能性があると考えられた。これらの結果は、治療と仕事を両立する患者に対する継続的な支援の実態と方策を検討するための基礎的資料となると考えられた。

初回調査から 1 年後のフォローアップ時に

は、就労状況を把握し、ベースライン時の要因と就労との関係について検討する予定である。

E. 結論

診断から1年以上経過したがん罹患者と指定難病罹患者を対象に、就労継続に影響する要因を網羅的に収集した。フォローアップの年となる次年度は、同じ対象者に対してアウトプットに関する情報を収集し、就労継続に与える要因を検討し、治療と仕事を両立する患者に対する継続的な支援の実態と方策に資する結果を提供する予定である。

F. 引用・参考文献

なし

G. 学会発表

なし

H. 論文業績

なし

I. 知的財産権の出願・登録状況:(予定を含む。)

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし

	がん	指定 難病	合計
中学校卒業	5	9	14
	1	1.8	1.4
高校中退・卒業	99	106	205
	19.8	21.2	20.5
短大・高専・専門学校中退・卒業	104	121	225
	20.8	24.2	22.5
大学中退・卒業	254	215	469
	50.8	43	46.9
大学院中退・修了	38	49	87
	7.6	9.8	8.7
合計	500	500	1,000

表3 学歴

	がん	指定難病	全体
99万円以下	13	11	24
	2.6	2.2	2.4
100～199万円	18	42	60
	3.6	8.4	6
200～299万円	40	48	88
	8	9.6	8.8
300～499万円	101	112	213
	20.2	22.4	21.3
500～799万円	146	140	286
	29.2	28	28.6
800～999万円	67	75	142
	13.4	15	14.2
1,000～1,499万円	82	52	134
	16.4	10.4	13.4
1,500万円以上	33	20	53
	6.6	4	5.3
全体	500	500	1,000

表4 年収 (p=0.003)

	注意力、集中力、記憶力の低下などの認知機能の異常		活力ややる気の低下などの気力の異常		弱視、視野欠損、色覚異常、複視等の視覚の異常		めまい、失神などの平衡機能の異常		関節や筋肉の痛み、全身の痛みなど疼痛に関する異常		発話の流暢性・明瞭性の低下、失語等の発語に関する異常		全身のスタミナ、疲れやすさなどの疲労に関する異常		軽作業による動悸・息切れ、心肺機能に関する異常		貧血、血液凝固機能等の血液機能に関する異常		感染しやすさなどの免疫機能の異常	
	がん	指定難病	がん	指定難病	がん	指定難病	がん	指定難病	がん	指定難病	がん	指定難病	がん	指定難病	がん	指定難病	がん	指定難病	がん	指定難病
特に症状はない	397	391	338	308	410	417	409	389	317	309	441	450	255	221	368	348	416	400	414	350
症状はあるが社会生活にはあまり支障がない	79	78	68	62	82	83	82	78	63	62	88	90	51	44	74	70	83	80	83	70
社会生活にやや支障がでる	80	74	124	129	65	55	66	83	135	120	40	31	178	172	95	94	60	70	62	91
社会生活にかなりの支障がでる	16	15	25	26	13	11	13	17	27	24	8	6	36	34	19	19	12	14	12	18
社会生活が全くできない	19	29	28	55	16	18	20	22	36	48	11	14	54	82	31	43	17	22	17	45
	4	6	6	11	3	4	4	4	7	10	2	3	11	16	6	9	3	4	3	9
	1	6	8	8	5	10	3	5	10	21	5	5	11	25	3	15	4	7	5	12
	0	1	2	2	1	2	1	1	2	4	1	1	2	5	1	3	1	1	1	2
	3	0	2	0	4	0	2	1	2	2	3	0	2	0	3	0	3	1	2	2
	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	1	0	0	0
全体	500	500	500	500	500	500	500	500	500	500	500	500	500	500	500	500	500	500	500	500
p		0.063		0.015		0.154		0.498		0.158		0.332		0.003		0.009		0.471		<0.001

	消化吸収などの胃腸の機能に関する異常		下痢、頻尿等の排便、排尿の機能に関する異常		代謝、ホルモン、体温調整機能に関する異常		筋力低下、筋麻痺、筋持久力の低下などの筋肉に関する異常		骨折しやすいなど関節や骨の機能に関する異常		協調運動、不随意収縮、ふるえ、歩行機能等の運動機能の低下		腫瘍、光線過敏、水疱、発疹、潰瘍等の皮膚に関する機能の異常		欠損、変形等、外見・容貌の変化		少しの無理で体調が崩れやすいこと		少しの無理で障害が進行すること	
	がん	指定難病	がん	指定難病	がん	指定難病	がん	指定難病	がん	指定難病	がん	指定難病	がん	指定難病	がん	指定難病	がん	指定難病	がん	指定難病
特に症状はない	380	320	331	288	402	421	374	363	462	432	449	432	449	432	437	444	345	290	449	375
あるが社会生活にはあまり支障	76.0	64.0	66.2	57.6	80.4	84.2	74.8	72.6	92.4	86.4	89.8	86.4	89.8	86.4	87.4	88.8	69.0	58.0	89.8	75.0
社会生活にやや支障がでる	89	118	125	133	74	52	99	83	25	45	34	34	34	34	45	32	108	132	31	72
社会生活にかなりの支障がでる	17.8	23.6	25.0	26.6	14.8	10.4	19.8	16.6	5.0	9.0	6.8	6.8	6.8	6.8	9.0	6.4	21.6	26.4	6.2	14.4
社会生活が全くできない	22	42	31	61	13	18	21	36	7	16	13	25	13	25	10	15	33	61	10	47
	4.4	8.4	6.2	12.2	2.6	3.6	4.2	7.2	1.4	3.2	2.6	5.0	2.6	5.0	2.0	3.0	6.6	12.2	2.0	9.4
	7	19	10	17	9	8	4	18	4	7	1	9	1	9	6	8	11	17	7	6
	1.4	3.8	2.0	3.4	1.8	1.6	0.8	3.6	0.8	1.4	0.2	1.8	0.2	1.8	1.2	1.6	2.2	3.4	1.4	1.2
	2	1	3	1	2	1	2	0	2	0	3	0	3	0	2	1	3	0	3	0
	0.4	0.2	0.6	0.2	0.4	0.2	0.4	0	0.4	0	0.6	0	0.6	0	0.4	0.2	0.6	0	0.6	0
全体	500	500	500	500	500	500	500	500	500	500	500	500	500	500	500	500	500	500	500	500
p		<0.001		0.003		0.242		0.002		0.011		0.009		0.051		0.424		0.001		<0.001

表5 社会生活への支障の状況

	1日の中で体調が 変動		日～週の単位 で体調が変動		より長期の単位 (月、年)で体 調が変動	
	がん	指定 難病	がん	指定 難病	がん	指定難病
特に変動はない	355 71.0	289 57.8	340 68.0	271 54.2	320 64.0	228 45.6
変動はあるが社会生活に はあまり支障がない	112 22.4	143 28.6	127 25.4	160 32.0	143 28.6	177 35.4
社会生活にやや支障がで る	24 4.8	56 11.2	26 5.2	52 10.4	29 5.8	74 14.8
社会生活にかなりの支障 がでる	7 1.4	11 2.2	5 1.0	16 3.2	6 1.2	20 4.0
社会生活が全くできない	2 0.4	1 0.2	2 0.4	1 0.2	2 0.4	1 0.2
全体	500	500	500	500	500	500

表6 体調の変調 (いずれも $p < 0.001$)

	がん	指定難 病	全体
できている	422 84.4	417 83.4	839 83.9
できていない	78 15.6	83 16.6	161 16.1
全体	500	500	1,000

表7 主治医への仕事の相談状況 ($p = 0.667$)

	がん	指定難病	全体
特に制限はない	409	325	734
	81.8	65	73.4
社会生活にはあまり支障がない程度の制限がある	72	132	204
	14.4	26.4	20.4
制限を守れば、社会生活にやや支障がでる	17	31	48
	3.4	6.2	4.8
制限を守れば、社会生活にかなりの支障がでる	0	12	12
	0	2.4	1.2
制限を守れば、社会生活が全くできない	2	0	2
	0.4	0	0.2
全体	500	500	1,000

表8 主治医からの制限とその社会生活への影響 (p<0.001)

	がん	指定難病	全体
フルタイム勤務でき、残業もできる	358	352	710
	71.6	70.4	71
フルタイム勤務できるが、残業はできない	76	75	151
	15.2	15	15.1
フルタイム勤務できない	61	71	132
	12.2	14.2	13.2
働けない	5	2	7
	1	0.4	0.7
全体	500	500	1,000

表9 就労可能時間 (p=0.552)

	がん		指定難病		p
屋外で体を使う作業	177	35%	157	31%	0.18
屋内で体を使う作業	268	54%	268	54%	1.00
重量物を取り扱う作業	85	17%	90	18%	0.68
コンピューターを使った事務作業	364	73%	379	76%	0.28
コンピューターを使わない事務作業	209	42%	233	47%	0.13
長時間立位	139	28%	139	28%	1.00
暑熱場所での作業	89	18%	98	20%	0.47
寒冷場所での作業	96	19%	89	18%	0.57
高所作業	66	13%	66	13%	1.00
車の運転	243	49%	236	47%	0.66
機械の運転・操作	122	24%	129	26%	0.61
対人業務	262	52%	273	55%	0.49
遠隔地出張（国内）	156	31%	124	25%	0.02
海外出張	90	18%	70	14%	0.08
単身赴任	90	18%	85	17%	0.68
在宅勤務	228	46%	246	49%	0.25

表 10 現在可能な作業

		現在利用		過去に利		知っているが利		知らない	p	
		(相談) し ている		用 (相 談) した ことがあ る		用 (相談) した ことが無い				
1. かかりつけ医療機関の相談窓口	がん	112	22%	76	15%	178	36%	134	27%	<0.001
	指定難病	88	18%	61	12%	147	29%	204	41%	
2. 保健所、健康福祉センターの相談窓口	がん	5	1%	36	7%	257	51%	202	40%	0.037
	指定難病	12	2%	57	11%	242	48%	189	38%	
3. 市役所（町・区役所等を含む）の相談窓口	がん	6	1%	26	5%	259	52%	209	42%	0.005
	指定難病	17	3%	41	8%	217	43%	225	45%	
4. 地域障害者職業センター	がん	5	1%	12	2%	193	39%	290	58%	0.001
	指定難病	2	0%	20	4%	138	28%	340	68%	
5. 障害者総合支援センター	がん	5	1%	13	3%	189	38%	293	59%	0.002
	指定難病	7	1%	21	4%	133	27%	339	68%	
6. 公共職業訓練施設（職業能力開発校、職業能力開発促進センター等）	がん	4	1%	31	6%	266	53%	199	40%	0.303
	指定難病	5	1%	36	7%	236	47%	223	45%	
7. ハローワークの一般求職窓口	がん	9	2%	137	27%	228	46%	126	25%	0.54
	指定難病	5	1%	234	47%	220	44%	141	28%	
8. ハローワークの専門援助（障害者）窓口・難病患者就職サポーター	がん	6	1%	20	4%	200	40%	274	55%	0.002
	指定難病	4	1%	44	9%	159	32%	293	59%	

9. 労働局や労働基準監督署	がん	5	1%	28	6%	272	54%	195	39%	0.036
	指定難病	3	1%	16	3%	247	49%	234	47%	
10. 産業保健総合支援センター	がん	4	1%	11	2%	140	28%	345	69%	<0.001
	指定難病	5	1%	8	2%	82	16%	405	81%	
11. 地域産業保健センター	がん	2	0%	13	3%	132	26%	353	71%	<0.001
	指定難病	3	1%	4	1%	81	16%	412	82%	
12. 労災病院治療就労両立支援センター	がん	3	1%	11	2%	107	21%	379	76%	0.006
	指定難病	1	0%	7	1%	69	14%	423	85%	
13. 難病相談支援センター	がん	4	1%	6	1%	110	22%	380	76%	<0.001
	指定難病	5	1%	22	4%	159	32%	314	63%	
14. 障害者就業・生活支援センター	がん	6	1%	9	2%	142	28%	343	69%	0.082
	指定難病	3	1%	17	3%	116	23%	364	73%	
15. 就労移行支援事業所	がん	5	1%	12	2%	101	20%	382	76%	0.917
	指定難病	4	1%	11	2%	109	22%	376	75%	
16. 就労継続支援 A 型事業所	がん	5	1%	9	2%	92	18%	394	79%	0.194
	指定難病	5	1%	8	2%	120	24%	367	73%	
17. 就労移行支援 B 型事業所	がん	4	1%	4	1%	99	20%	393	79%	0.244
	指定難病	4	1%	8	2%	120	24%	368	74%	
18. 授産施設、作業所、デイケア等	がん	5	1%	10	2%	194	39%	291	58%	0.349
	指定難病	7	1%	5	1%	178	36%	310	62%	
19. 労働組合	がん	16	3%	25	5%	293	59%	166	33%	0.117
	指定難病	14	3%	23	5%	260	52%	203	41%	
20. 患者会	がん	5	1%	17	3%	174	35%	304	61%	0.352

21. ジョブコーチ	指定難病	10	2%	24	5%	177	35%	289	58%	0.726
	がん	6	1%	8	2%	70	14%	416	83%	
22. 社会保険労務士	指定難病	3	1%	6	1%	71	14%	420	84%	0.127
	がん	6	1%	18	4%	273	55%	203	41%	
23. キャリアコンサルタント	指定難病	5	1%	9	2%	254	51%	232	46%	0.67
	がん	5	1%	17	3%	160	32%	318	64%	
	指定難病	5	1%	11	2%	155	31%	329	66%	

表 11 社会的資源への相談状況

	「はい」と回答した者		がん	指定難病	
	がん	指定難病			
1. 病気による症状や後遺症、治療などにより、業務を行う能力に影響があることで、仕事の継続や職場復帰に困難を感じますか	97	19%	153	31%	<0.001
2. 病気によって、不安などの心理的な変化が起こったことで、仕事の継続や職場復帰に困難を感じますか	134	27%	175	35%	0.005
3. 資格、職位、雇用形態や経済的な事情などといった個人背景が理由で、仕事の継続や職場復帰に困難を感じますか	81	16%	105	21%	0.051
4. 自主的な取り組み(意欲、職場への働きかけ、自主トレーニングなど)の不足が理由で、仕事の継続や職場復帰に困難を感じますか	61	12%	80	16%	0.084
5. 職場の規模や設備といった職場の特徴が理由で、仕事の継続や職場復帰に困難を感じますか	59	12%	91	18%	0.005
6. 職場の理解や配慮、気遣いといった受け入れの姿勢が理由で、仕事の継続や職場復帰に困難を感じますか	70	14%	105	21%	0.004
7. 職場における自身の配置に関わるのが理由で、仕事の継続や職場復帰に困難を感じますか	77	15%	103	21%	0.032
8. 家族や地域に関する問題が理由で、仕事の継続や職場復帰に困難を感じますか	49	10%	65	13%	0.111
9. 職場と医療機関との情報のやり取りや連携に関わる問題が理由で、仕事の継続や職場復帰に困難を感じますか	44	9%	49	10%	0.586
10. 治療と仕事の両立についての情報の過不足により、仕事の継続や職場復帰に困難を感じますか	56	11%	78	16%	0.041

表 12 10 の質問への回答

	がん	指定難病	全体
経営者・役員	59	35	94
%	11.8	7.0	9.4
正規の職員・従業員	250	299	549
%	50	59.8	54.9
パート・アルバイト	89	101	190
%	17.8	20.2	19
労働者派遣事業所の派遣社員	16	11	27
%	3.2	2.2	2.7
契約社員	41	23	64
%	8.2	4.6	6.4
嘱託	19	10	29
%	3.8	2	2.9
その他	26	21	47
%	5.2	4.2	4.7
全体	500	500	1,000
%	100	100	100

表 13 雇用形態 (p=0.002)

	がん	指定難病	全体
管理職（課長職以上）	102	77	179
%	20.4	15.4	17.9
専門職（研究職、技師、コンピューターエンジニア、医師、看護師、教員など）	83	97	180
%	16.6	19.4	18
技術者（電気技術者、コンピューター技術者、栄養士など）	38	27	65
%	7.6	5.4	6.5
事務職（一般事務員、経理、秘書、データ入力オペレーターなど）	127	133	260
%	25.4	26.6	26
サービス（販売員、保安員、ウェイトレス、保育、介護士など）	48	73	121
%	9.6	14.6	12.1
技術を必要とする生産技能職（建築、機械修理、整備、手工芸など）	18	14	32
%	3.6	2.8	3.2
機械を操作する生産技能職（機械の運転・操作、自動車の運転など）	25	18	43
%	5	3.6	4.3
身体を使う作業の多い生産技能職（包装、出荷、清掃など）	27	37	64
%	5.4	7.4	6.4
その他の仕事	32	24	56
%	6.4	4.8	5.6
全体	500	500	1,000

表 14 仕事の内容 (1) (p=0.041)

	がん		指定難病		p
体力的にきつい作業や業務が含まれない仕事	211	42%	231	46%	0.203
休憩が比較的自由にとりやすい仕事	237	47%	230	46%	0.657
定時に終わられたり、長時間勤務でない仕事	239	48%	240	48%	0.95
体調に合わせた柔軟な時間や業務の調整がしやすい仕事	177	35%	190	38%	0.394
通院、体調管理、疲労回復に使える休日が十分にある仕事	213	43%	222	44%	0.566
通院がしやすい職場での仕事	188	38%	219	44%	0.046

表 15 仕事の内容 (2)

	がん		指定難病		p
あなたは、現在の健康状態で仕事を継続するにあたって、会社から配慮や支援を受けていますか。	238	48%	251	50%	0.046
あなたは、ご自身の病気のことについて、勤務先の誰かに相談していますか。	239	48%	230	46%	0.411
あなたは、ご自身の病気のことを会社（上司や人事、産業医、経営者など）に報告していますか。	350	70%	332	66%	0.568
あなたは、会社に対して、治療と仕事の両立（治療をしながら仕事を続けること）への支援を申し出ていますか。	158	32%	147	29%	0.45
あなたは、仕事を続けるにあたり主治医に意見（書）を求めていますか。	112	22%	106	21%	0.646
あなたは、主治医に意見を求めるにあたり、業務内容を記載した書面を主治医に提出していますか。（n=218）	41	37%	36	34%	0.683
あなたは、主治医の意見書を会社に提出していますか。	46	41%	45	42%	0.836
あなたは、主治医からの意見書をもとに、会社と、治療と仕事の両立をするために、働き方について相談や検討をしていますか。	63	56%	54	51%	0.432
あなたは、主治医からの意見書をもとに、治療と仕事の両立をするために何らかの支援を受けていますか。	41	37%	47	44%	0.245

表 16 支援の内容 (1)

		支援を受けている		支援を受けていない が、必要としている		支援を受けていないし、 必要としていない		p
1. 産業医や産業看護職による事業 所内での健康管理	がん	58	12%	37	7%	405	81%	0.195
	指定難病	41	8%	40	8%	419	84%	
2. 上司などによる定期的な健康状 態の確認	がん	85	17%	48	10%	367	73%	0.473
	指定難病	72	14%	54	11%	374	75%	
3. 主治医・専門医と職場担当者を 交えた仕事内容のチェック	がん	34	7%	44	9%	422	84%	0.42
	指定難病	26	5%	52	10%	422	84%	
4. 職場内で必要な休憩や疾患の自 己管理ができる場所の配慮	がん	68	14%	56	11%	376	75%	0.181
	指定難病	53	11%	70	14%	377	75%	
5. 通院への配慮	がん	169	34%	63	13%	268	54%	0.64
	指定難病	168	34%	73	15%	259	52%	
6. 勤務時間中の服薬や自己管理、 治療等への職場の配慮	がん	91	18%	47	9%	362	72%	0.729
	指定難病	86	17%	54	11%	360	72%	
7. 能力的に無理のない仕事への配 置	がん	96	19%	50	10%	354	71%	0.028
	指定難病	74	15%	73	15%	353	71%	
8. 仕事の内容や仕方の個別的な調 整や変更	がん	89	18%	55	11%	356	71%	0.304
	指定難病	75	15%	67	13%	358	72%	

9. 労働時間や勤務時間に関する環境整備	がん	104	21%	51	10%	345	69%	0.06
	指定難病	88	18%	74	15%	338	68%	
10. 新型コロナへの感染、重症化リスクに対する基礎疾患に対応した配慮	がん	86	17%	56	11%	358	72%	0.174
	指定難病	72	14%	73	15%	355	71%	

表 17 支援の内容 (2)